



第 912 号 ミニかわら版

令和 6 年 1 月 1 日

(この資料は全部お読みいただいても60秒です)

ヤマダ総合公認会計士事務所
代表 山田良平

〒124-0012
東京都葛飾区立石 1-12-11 ヤマダビル
TEL:03-3694-6091
FAX:03-3691-6680

生成AIを利用3割、目的は情報収集や文章づくり～経営者等にアンケート調査

企業向けクラウドシステムなどを手掛ける株式会社FIXER(以下、FIXER)が昨年10月に実施した日本企業の経営者や管理職を対象としたアンケート調査によりますと、生成AIを「利用している」との回答は3割に達しました。そのうち、業務に利用している人は約2割、私的な目的だけで利用している人は約1割でした。利用目的では「情報収集・調査」との回答が最も多くなりました。

FIXERは企業向けクラウドシステムのほか、安全性を高め、使いやすくした生成AI「GaiXer(ガイザー)」を提供しています。この調査はFIXERが全国の従業員300人以上の企業を対象に2023年10月17～20日に実施し、800件の回答を得たものです。業種は情報・通信のほか、金融・保険、不動産、流通・小売りなどの企業が対象となりました。

生成AIは人間の指示に基づき文章や画像を自動で生成する人工知能(AI)で、企業は生産性向上にむけ導入を進めています。ポストン・コンサルティング・グループは生成AIの市場規模が2027年には世界で1210億ドル(約17兆円)に達する可能性があるかと予測しています。

このアンケート調査ではまず、「生成AIを利用しているか」と聞いたところ、「業務で利用している」が21.9%に達し、新しい技術にもかかわらず、中堅以上の企業ではすでに一定数が活用し動き始めていることがわかりました。なお、「私用では利用しているが業務では利用していない」は8.8%、「私用でも業務でも利用していない」は69.8%でした。

次に、「生成AIを具体的にどんな業務で利用しているか」との質問に対しては「情報収集、調査」との回答が40.6%でトップでした(複数回答)。生成AIを検索サービスのような観点で利用している人も少なくないようです。

業務の利用で次に多かったのは「文章のチェック・構成」32.6%で、「文章の要約」(28.6%)、「企画書の作成」(27.4%)、「稟議書の作成」(24%)、「稟議書、企画書以外の文書の作成」(20.6%)なども多数の回答を集めました。複数回答ではありますが、合計すると130%以上が文章関連で、利用者の大半が生成AIに対して、主に文章を作成する能力を期待していることがわかります。

このほか、「アイデア出し」との回答も26.3%に達し、生成AIについては、「人間では気づかない視点を指摘してくれるケースがある」との見方もあり、新たなアイデアに期待する向きもあるようです。また、「エクセルの関数やコードの生成」との回答は13.7%ありました。一方で「動画・画像の生成」は6.3%にとどまりました。生成AIは現時点では、画像や動画よりも文章の生成のイメージが強いとみられているようです。

